

社会学習発表 全国2位

南アの中学生3人

南アルプス市の中学生3人が、平等な社会を実現するためのアイデアを発表する全国規模の学習イベントで2位となった。大会はデジタル教材開発・販売の「すららネット」が主催する「すららアクティブ・ラーニング」で、3人は家族の世話を担う18歳未満の子ども「ヤングケアラー」を取り上げ、支援を受けやすい社会の実現を訴えた。

ヤングケアラー 調査で評価



峡中

一 諒
津 小
平 山
野 菜
飯 穴

(055)280-3230
FAX 280-3231

大会は、すららネットが自ら考え行動する人材の育成を目的に2015年から毎年開催している。小学校高学年～高校生が対象。参加者は3人1チームで出題されるテーマに関するリポートを提出、上位5チームがオンライン上でプレゼンテーションを行う。今年の大会には全国から40チームが参加した。
2位となった中原梅花さん
〓 榊形中3年〓、若尾愛姫さん
〓 白根巨摩中3年〓、河西駿輔さん
〓 榊形中2年〓の3人は、通っている南アルプス

市十五所の個別学習塾「ココテラス」(長谷川貞雄塾長)で勧められたことから、大会に参加した。
「自分と同世代の人が抱える問題について考えたかった」(若尾さん)として、ヤングケアラーを取り上げた。6月ごろからヤングケアラーについて調べ始め、榊形中、白根巨摩中の3年生約60人を対象にアンケートも実施。認知度や解決方法などについて調査した。河西さんは「アンケート集計が大変だったが、認知度の低いことが分かった。家族間の話で、プライバシーの問題もある。どう解決すべきか、何度も話し合った」と振り返った。
7月のリポート審査を通過し、8月下旬、オンラインによる最終プレゼンテーションに出場。パワーポイントを使い、認知度の低さなどの課題を挙げ、周囲の人や行政によるサポートの必要性を訴え、支援を求めやすい社会の実現を呼び掛けた。
アンケートを行うなど丁寧な調査を重ねたことや、実情が明らかになってきたばかりの問題に挑戦したことなどが評価された。中原さんは「受賞できてうれしかった。大会を通じて社会の現状を知ることができた」と話した。